

第3種郵便物認可

(日刊)

# 赤坂離宮前休憩所のカフェ 「カーブドッチ」開業へ

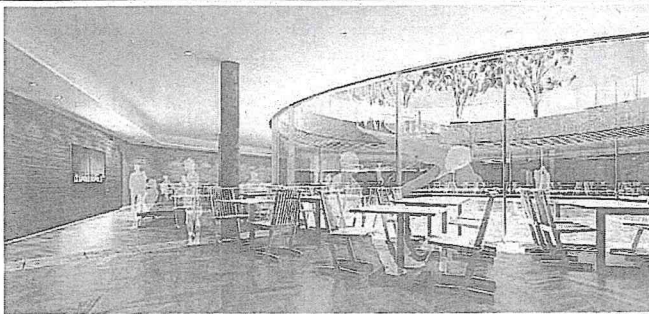
## 飲食提供、土産物販売も

内閣府が新設する迎賓館赤坂離宮前休憩所(東京都新宿区)のカフェの運営事業者に、カーブドッチワイナリーを運営する欧州ぶどう栽培研究所(新潟市西蒲区)が選定された。国内外から多くの観光客の利用が見込まれる施設で、ワインを含む自社の飲食料品も生かした軽食などを提供する。

赤坂離宮(港区)は1909(明治42)年に建設されたネオバロック様式の西洋風宮殿建築。2016年4月に通年での一般公開が始まり、インバウンド(訪日観光客)も含め1日平均約1900人が訪れる。しかし、トイレや休憩スペースが不足しており、内閣府は総事業費約20億円で正門前の公園に休憩所を建設している。

施設は地上1階、地下1階建てで中心部が吹き抜けのドーナツ型。延べ床面積1170平方メートル。ガラス張りの地下1階に飲食や休憩スペースなどを設け、建物全体で約200席の座席が設置される予定だ。

迎賓館赤坂離宮前の休憩所イメージ(内閣府ホームページより)



同社は飲食の提供と物販を担当。カフェは飲み物のほか、日本食やカレー、パスタなどテイクアウト方式のメニューを想定しており、自社ワインやハム、ソーセイジなども活用する。屋外でドリンクやスイーツなどを販売するキッチンカーも3台程度を導入する。物販は、雑貨や菓子類などで赤坂離宮のイメージに合った土産物を企画する。初年度の年間売り上げは1億2千万円を目標とする。

同社は展開するワイナリーや温泉宿泊施設、飲食店のノウハウを運営に生かす

うと公募に応募した。今井卓社長は「日本を代表する一画の運営を任せてもらえるのは大きなチャンス。訪れた県民に自慢してもらえそうな店にしたい」と話した。